

終刊にあたって

神山 孝夫

2007年6月12日、「国立大学法人法の一部を改正する法律」（平成19年法律第89号）が成立し、同20日に公布された。この法律は国立大学法人大阪外国語大学を国立大学法人大阪大学に統合することを骨子とし、同年10月1日から施行する。その中には、同法律施行の日をもって大阪外国語大学が「解散」と記されている。これに伴い、本誌発行の母体である本学外国語学部ヨーロッパⅠ講座も同日をもって消滅し、現時点で本講座に所属する9名の教員は、下表に示すごとく同日より大阪大学の新設・既設の諸部局に分属することになっている（左から氏名（50音順）、新所属部局、所在キャンパス）。本誌『ロシア・東欧研究』がここに終刊を迎える所以である。

生田美智子	大学院言語文化研究科	言語社会専攻	応用言語社会講座	箕面
上原順一	大学院言語文化研究科	言語社会専攻	地域言語社会講座	箕面
岡本真理	世界言語研究センター	ヨーロッパ・アメリカ言語文化圏研究部門Ⅰ		箕面
神山孝夫	大学院文学研究科	文化動態論専攻	言語生態論講座	豊中
鈴木広和	大学院人間科学研究科	グローバル人間学専攻	地域研究講座	吹田
林田理恵	大学院言語文化研究科	言語社会専攻	応用言語社会講座	箕面
藤原克美	世界言語研究センター	ヨーロッパ・アメリカ言語文化圏研究部門Ⅰ		箕面
堀江新二	大学院言語文化研究科	言語社会専攻	地域言語社会講座	箕面
早稲田みか	世界言語研究センター	ヨーロッパ・アメリカ言語文化圏研究部門Ⅰ		箕面

終刊にあたり、1961年創刊の『ロシア・ソビエト研究』から数えて、ほぼ半世紀にわたり同学諸兄に賜ったご愛顧に対し篤くお礼申し上げる。今後バックナンバーをご参照いただく際の便のため、以下に『ロシア・ソビエト研究』と『ロシア・東欧研究』の総目次と掲載記事総目録を掲げる。今日では、従来の紙媒体の形のみならず、掲載記事のかなりの部分が国立情報学研究所の提供する論文情報ナビゲータ CiNii (<http://ci.nii.ac.jp>) により PDF ファイルの形式で目にすることができる。何れかの形で今後ともご利用いただければ幸甚である。

私事にわたり恐縮だが、思い返せば薄学非才の小生が本学に拾っていただいたのは1988年のことであった。F1 ファンならずともご存知かと期待するが、相撲で言えばかの双葉山、あるいは大鵬にも譬えられるかと思われる稀代の名手アラン・プロストと、「音速の貴公子」としてわが国の若い女性に人気を博した故アイルトン・セナ（譬えれば千代の富士か貴乃花か？）の伝説の死闘がはじまった年である。爾来、彼らの血で血を洗うような激闘とはまっ

たく無縁だが、それなりに奮闘して今日に至った。その間には学部改組、震災、法人化を経、所属部局の名はロシア語学科から地域文化学科ロシア・東欧地域文化専攻（教員組織はヨーロッパⅠ講座）へと、学校の名前も厳しく国立大学法人大阪外国語大学へと替わったが、小生の場合、目覚しい進歩を遂げたのは胴回りと体脂肪率だけだったかもしれない。無論大した貢献はできなかったが、20年にわたって研究の場と生活の糧、そして様々な方々との出会いを与えてくれた本学と所属部局の消滅に際し、一抹の寂しさを禁じえない。

大阪外国語大学と旧ロシア語学科、そして現ヨーロッパⅠ講座に対し深い恩義を感じていることを付記するとともに、今後上記9名に留まらず大阪大学内の様々な部局に散在する研究者諸氏のご協力を得て、遠からず将来において学内横断的な研究会とその会誌（実質的に本誌の後継誌）が誕生することを祈念しつつ筆を擱く。

2007年8月20日

付記 ご高齢にもかかわらず無理な願いをお聞き届けいただき、現ヨーロッパⅠ講座のルーツたる旧ロシア語学科の歴史を綴る玉稿をお寄せくださった本学名誉教授山口慶四郎先生に対し、誌面をお借りして深甚なる謝意を表したい。

『ロシア・ソビエト研究』

『ロシア・東欧研究』

総目次

旧シリーズ『ロシア・ソビエト研究』（大阪外国語大学ロシア語研究室）
第1号（1961）～第17号（1993）

第1号（1961（表紙の記載は1960））

- まえがき 高橋 輝正 1
- ペ・ヴェ・ヴォロブーフ：
10月革命の法則性と民族的・歴史的諸条件
（『歴史の諸問題』1960.11） くにもと・てつお訳 3
- エフ・デ・クレートフ：
レーニンの一国社会主義論の成立
（『歴史の諸問題』1960.4） 小野 堅訳 35

第2号（1961）

- イーストリナ・イエ・エス：動詞（1）
（アカデミー版『ロシア語文法』第1巻） くにもと；小野訳 1
- クリュチェフスキー・ヴェ・オ：
プーシキン銅像除幕式の演説 くにもと・てつお訳 29
- グラトコフ・イ：レーニンの4月テーゼ 小野 堅訳 38

第3号（1962）

- イーストリナ・イエ・エス：動詞（2） くにもと；小野訳 1
- リアリズムにかんする覚え書き（1） 法橋 和彦 17
- ルイバコフ・ベ・ア：
9-13世紀半ばのロシア史の一般的現象概観（1） くにもと・てつお訳 49
- グラトコフ・イ：
ロシアの社会主義革命にかんするレーニンの綱領
資料 『経済情勢について』 小野 堅訳 63
82

第4号（1964）

- Очерк исторической морфологии русского языка О. В. Плетнер 1

第5号 (1966)

イーストリナ・イエ・エス：動詞 (3)	くにもと；小野 堅	1
建国伝説の発展	くにもと・てつお 幸	45
農民運動，兵士の運動とデカブリスト運動	藤本 和貴夫	53
ヴォロブエフ・ペ・ヴェ： レーニンの労働者統制思想と1917年3月－10月の労働者統制運動	小野 堅 訳	75
ブレスト・リトフスク講和とレーニン	渡辺 正幸	101
紹介 ハルガルテンの『1914年以前の帝国主義』にたいするエルサリムスキーの評価について	渡辺 正幸	117

第6号 (1968) プレトネル教授生誕75周年及び退官記念号

プレトネル先生の御退官にあたって	高橋 輝正	1
プレトネル先生の業績と略歴	武藤 洋二	2
思い出すままに	プレトネル	8

歴史

プーシキンの『エゼールスキー』について —詩人の自由—	国本 哲男	12
癒着と従属 —ツァーリズムの国家機関と独占資本との関係について—	渡辺 正幸	39

文学

Уголовная проза и уголовная поэзия ソビエト文学における「現代のヒーロー」 批判的おぼえ書き (一)	H. Мусфельд	51
十月革命と文学・芸術における一つの状況	法橋 和彦	59
レニングラード便り	武藤 洋二	105
編集後記	小野 堅	150
	武藤 洋二	155

第7号 (1972)

論文

トルストイの「神的なものと人間的なもの」について スタニスラフスキー・システム考察 —『紅旗』の「システム」批判に関連して—	高橋 輝正	1
—一枝文と不完全二枝文の境界区分について	奥村 剋三 訳	15
経済史学の方法 —ソビエト経済史研究のばあい—	植村 進	28
	小野 堅	45

資料

ソフホーズおよびその他の国営農業企業の完全経済計算性への移行について	岡本 武 訳	62
------------------------------------	--------	----

随想

旅行記：絹の道の社会主義	武藤 洋二	76
--------------	-------	----

第8号 (1973)

論文

ロシア語の文法的語順

—現代ロシア語の発話の根底にある語順について—

植村 進 1

『イルクーツク物語』のコーラス

桜井 郁子 13

レーニンと西部ロシア

荒武 鉄郎 33

翻訳

エフ・ペ・フィーリン:

言語学の若干の哲学的諸問題について

石田 修一訳 53

書評

A. Г. Руднев « Синтаксис современного русского языка »

について

植村 進 79

訪問記

マルシャークとチュコフスキ

田中 泰子 83

第9号 (1974)

論文

社会主義的所有の二形態の「接近・融合」過程

—1960年代コルホーズの社会化水準の分析を中心に—

岡本 武 1

ゲルツェンと「Very dangerous!!!」

—「余計者」と「暴露文学」を中心に—

生田 美智子 33

翻訳

ウラジーミル・マヤコフスキ:「同志レーニンとの対話」

田中 泰子訳 57

ペ・エヌ・ペールシン:ヴェ・イ・レーニンとソ連邦に

おける農業問題の解決

小野 堅訳 65

人物紹介

17世紀スラブの異^{パンスラヴィスト}才 ユーリー・クリジャニチ

安村 仁志 85

第10号 (1975)

論文

ロマノフの文体論とその評価をめぐって

石田 修一 1

「ソルジェニツィン問題」のうけとめかたにかんする

簡単なメモと意見

(1974年春の日本批評界・論壇にみる)

法橋 和彦 17

コルホーズ制度の改革と農業の指導・管理体系

—MTS改組後の農業指導・管理機関の編成過程—

岡本 武 31

研究ノート

マヤコフスキ「レーヴィ・マルシ」についての覚え書

田中 泰子 61

紹介

『ネップに関するレーニンの学説とその国際的意義』
(1973. モスクワ《エコノミカ》出版所)

小野 堅 73

第11号 (1976)

- 研究ノート ロシアにおける三文体論の系譜 石田 修一 1
研究ノート マヤコーフスキイの詩「汽車で」(Еду)に
ついて考えたこと 田中 泰子 11
放送ノート トルストイを語る 法橋 和彦 33

第12号 (1979)

論文

- ソ連邦における最近の農業振興政策 山口 慶四郎 1
ソ連邦における農工複合体 岡本 武 29
ベリトフ論 生田 美智子 51
チェルヌイシェフスキイの小説作法
—ロマン『何をなすべきか?』における対比法ある
いはパラレリズムについて (1) 長野 俊一 69

書評

- ソビエト経済史研究の深化 —上島武著『ソビエト経済史
序説—ネップをめぐる党内論争—』について 小野 堅 83

第13号 (1984)

翻訳

- В. Н. Данков «Историческая грамматика русского языка
— выражение залоговых отношений у глагола».
Москва. Высшая школа. 1981. 石田 修一 1

論文

- ゴゴリと「全ロシア」—『死せる魂』第一部— 武藤 洋二 15
農工コンプレックスの管理体系
—地区農工合同(РАПО)の組織と管理— 岡本 武 27

研究ノート

- 「真赤な花」はどこに咲いたか?
—С.Т.アクサーコフの「真赤な花」をめぐる— 田中 泰子 50

資料

- ソ連共産党中央委員会 山口 慶四郎 82

第14号 (1987)

論文

- ロシア語史における *тыт の再編過程について 石田 修一 1
ロシア語動詞の意味分析の方法論に関する基本的視点と 小野 理恵 25

教授法的観点

書評

- Щукин А. Н. Методика краткосрочного обучения русскому языку как иностранному, М., 1984. Г. Терещенко 53
ア・エヌ・シューキン『外国語としての短期学習・教授法』(1984年) 田中 則子 63

追悼

- 高橋輝正先生について 小野 堅 67
ピヌス教授を追憶する 山口 慶四郎 69
イフゲーニア・ミハイロブナのこと 田中 泰子 75
バービンツェフ先生の笑顔 武藤 洋二 81

第15号(1989)

論文(語学)

- ロシア語「所有」パーフェクトについて 石田 修一 1
身体言語表現の二重構造と異文化間コミュニケーション 生田 美智子 17

論文(文学)

- 『分身』の告白小説的性格とその展開 松本 賢一 45
広津和郎『神経病時代』の誕生とチェーホフの『決闘』 渡辺 聡子 65
ルーヂンの「隠れ家」—ツルゲーネフと日本近代文学— 野村 孝夫 87

第16号(1992)

論文(文学)

- 「おおきなかぶ」考—文学教育の視点から— 田中 泰子 1
ルーヂンの「隠れ家」(承前)
—ツルゲーネフと日本近代文学— 野村 孝夫 29

論文(語学)

- ソマティック・コードとバーバル・コードの相互交渉
—ソマチズムの言語表現と慣用句— 生田 美智子 57
スラブ語の「娘」をめぐって 神山 孝夫 79
ロシアの都市方言 林田 理恵 111

第17号(1993)

論文(文学)

- ツルゲーネフのロシア語 法橋 和彦 1
ルーヂンの「隠れ家」(3)
ツルゲーネフと日本近代文学 野村 孝夫 15
スターリン体制下におけるオレーシアという現象 武藤 洋二 45
「バベルの塔」など
—ロシアにおける子供のための聖書物語— 田中 泰子 63

資料 (文学)		
アンドレイ・タルコフスキーの『ストーカー』をめぐって	扇 千恵	91
論文 (語学)		
ロシア語の命令形と音節構造	上原 順一	101
身体表現と言語・文化	生田 美智子	107
資料・翻訳・解説 (語学)		
イヴァン・ドブレブ著『スラブ祖語子音語幹、二重音幹 曲用の起源と意義について』 —「古代ブルガリア語」への補足資料として—	石田 修一	129
終刊にあたって	法橋 和彦	177
『ロシア・ソビエト研究』総目録		183

新シリーズ『ロシア・東欧研究』(大阪外国語大学ヨーロッパI講座)
第1号(1997)～第12号(2007)

第1号(1997)

卷頭言		
ミクロの観察眼(め)とマクロの思想(こころ)を	法橋 和彦	1
論文		
ロシアにおける農業改革と農業経営 —その経緯・現状・課題—	岡本 武	5
Потерпевшие кораблекрушение, или изгнанники из Серебряного века	Вечеслав Казакевич	35
Oscar Jászi and the Magyar-Jewish Alliance in Hungary	Nobuaki Terao	61
アディ・エンドレの可能性 —中・東欧におけるモダニズム—	田代 直也	105
Ввысь (Тема природы — деревья — в творчестве Марины Цветаевой)	Наталья Кавакита	125
現代ロシア人の文化・芸術への意識	五十嵐 徳子	143
編曲としてのバルトークの《ソナティナ》	富浪 貴志	159

第2号(1998) 小野堅、法橋和彦、荒武鉄郎教授退官記念号

論文		
大学における異言語教育の新しいコンセプトを模索して	林田 理恵	1
内容類型学と個別言語学の接点 —最近の研究に見るロシア語「態」の研究—	石田 修一	29

XV ^{suf} (огнегущитель) 型名詞の語形成について	上原 順一	55
ロシア連邦内のウラル系諸民族の言語状況		
—ハンガリーにおける比較言語学研究史の視点から—	岡本 真理	75
Странности русских поэтов	КАЗАКЕВИЧ Вечеслав	99
The Slovak State Language Law		
—its meaning and background—	WASEDA Mika	123
移行期ロシアの農村再生と社会問題		
—農村の生活基盤整備と農業改革—	岡本 武	135
翻訳		
リューディガー・シュミット		
「古典アルメニア語歴史文法」(その1)	神山 孝夫訳	155
ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ		
ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季—	田中 泰子監訳	183
ハンガリー王国「1267年法令」試訳	鈴木 広和訳	221
小野、法橋、荒武教授略歴・主要業績一覧		231
第3号 (1999)		
1997年度退官記念最終講義		
ネップとレーニンの社会主義漸次移行論	小野 堅	1
古典について	法橋 和彦	25
リトアニア民族運動と識字率	荒武 鉄郎	65
論文		
ロシア語受動構文の意味と機能	林田 理恵	103
Remarks on the Standardisation of Minority Languages		
—The Case of Central Eastern Europe in the Nineteenth Century—	OKAMOTO Mari	143
Облако Поплавского	КАЗАКЕВИЧ Вечеслав	163
Поэтическая идея бессмертия в творчестве Марины Цветаевой	КАВАКИТА Наталья	183
「箱」からの解放 —チェーホフの小三部作をめぐって—	渡辺 聡子	203
橋耕斎と日露文化交流	生田 美智子	223
ロシアのテキスタイル産業の企業動向		
—「ロスチェキスチル」と商社の対立をめぐって—	藤原 克美	257
ユダヤ人の〈無伴奏チェロ・ソナタ〉が持つ形式と構造の特質	富浪 貴志	279
翻訳		
ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ		
ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季— (その2)	田中 泰子監訳	297
追悼文		
山岸リリヤーナ先生を偲んで	神山 孝夫	329

第4号(2000)

論文

- ハンガリー社会言語学の現状と課題 岡本 真理 1
- От школы памяти к школе мышления
—проблемность в обучении на примерах грамматики
и лексики— КАЗАКЕВИЧ Маргарита 19
- 『かもめ』(1898)から『かもめ』(1917)へ
—スタニスラフスキーとダンチェンコ— 堀江 新二 35
- Проблема архетипа в литературе и Марина Цветаева
(Часть первая) КАВАКИТА Наталья 59
- プーシキンにおける「状況の奇妙な重なり合い」
—プーシキンが取り上げたロシア精神の迷信的側面 加藤 純子 85

研究ノート

- ロシアにおける葬送の呪文についての一考察 藤原 潤子 121

翻訳・資料

- グルジア語概観 —ロシア語研究のために— 横井 幸子 143
- ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ
ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季— (その3) 田中 泰子監訳 171
- コルネイ・チュコフスキイの日記より 1999年度田中泰子ゼミ一同 199
- ネタニエル・カツブルク『ハンガリー・ユダヤ史研究の
問題点：なぜハンガリーのドゥブノフやユダヤ人の
セクフェーが出なかったのか?』 寺尾 信昭訳 227

第5号 (2001)

論文

- 印欧祖語の成節流音をめぐって —スラブ語前史における
「開音節法則」とメタテーゼ— 神山 孝夫 1
- «Путь кенгуренка», или «Смерть от изящества»
—опыт исследования национальной специфики
восприятия художественного произведения — КАЗАКЕВИЧ Маргарита 45
- ロシア語受動構文と不定人称文 林田 理恵 71
- On Hungarian Infinitive Constructions WASEDA Mika 119
- 心を持った超^{スーパーマリオネット}人形 —『ハムレット』1911
—スタニスラフスキーとゴードン・クレイグ— 堀江 新二 131

翻訳

- ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ
ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季— (その4) 田中 泰子監訳 165
- コルネイ・チュコフスキイの日記より 2000年度田中泰子ゼミ一同 191

第6号 (2002)

論文

Споры «о временах»

в полемической литературе Московской Руси	Владимир Семаков	1
『ノヴゴロド第一年代記 (シノド本)』における		
動詞 <i>бы</i> の用法について	横井 幸子	19
故郷へのトスカー	藤原 潤子	49
ペテルブルグのネフスキー (1) —ペテルブルグ工科大		
学とペテルブルグ大学東洋学部—	生田 美智子	59
ハンガリー外交とチェコスロヴァキア危機 (1968)	荻野 晃	83

研究ノート

ハンガリーにおける国家概念の再編と「東方ユダヤ人」	寺尾 信昭	117
---------------------------	-------	-----

翻訳

ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ		
ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季— (その5)	田中 泰子監訳	137
リーナ・コステンコ詩抄 —現代ウクライナ詩の世界—	原田 義也訳注	157
コルネイ・チュコーフスキイの日記より	2000年度田中泰子ゼミ一同	191

第7号 (2003)

論文

О значении форм аориста и имперфекта в языке русских памятников 17 века	Владимир Семаков	1
ロシア語のアспектと視点, 内部記述/外部記述		
—不完了体<一般的事実>の意味を中心に—	林田 理恵	21
前史におけるスラブ人 (1)	神山 孝夫	49
マイノリティー社会の帰属意識と言語意識に関する一考		
察 — ユーゴスラビアとルーマニアのハンガリ		
ー・マイノリティー —	岡本 真理	79
リトアニア語の過去分詞の意味と機能 (1)		
—時間性と定語的機能について—	櫻井 映子	105

研究ノート

『肖像画』について	木寺 律子	133
-----------	-------	-----

翻訳

ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ		
ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季— (その6)	田中 泰子監訳	155
コルネイ・チュコーフスキイの日記より	田中 泰子監訳	177
ソヴィエト政権へ寄せられた手紙 —1928—1939年 (1)	横田 真紀	203

追悼文

千野先生の思い出	神山 孝夫	235
----------	-------	-----

第8号 (2004)

論文

江戸時代のロシアイメージ

—大黒屋光太夫とラクスマン遣日使節団—

生田 美智子 1

ハンガリーにおけるポスト共産主義時代の国防軍改革

荻野 晃 23

研究ノート

ロシア・イメージ考 (ロシア演劇の受容) :

小山内薫のロシア演劇イメージ

堀江 新二 51

翻訳

ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ

ロシア文学史 —「ロシアの心」の四季— (その7)

田中 泰子監訳 67

コルネイ・チュコーフスキイの日記より

田中 泰子監訳 89

レーシャ・ウクラインカ『カタコンベにて』

原田 泰也訳 113

ソヴィエト政権へ寄せられた手紙 —1928—1939年 (2)

横田 真紀 155

第9号 (2005)

論文

ロシア語特殊疑問文におけるアスペクト的意味と機能

林田 理恵 1

文法カテゴリーとしての^{ケース}格

—ハンガリー語の^{ケース}場合からの展望—

早稲田 みか 33

Семантика перфектива в русском и японском языках

Федор Звягин 47

『カラマゾフの兄弟』におけるファウストの登場

木寺 律子 67

「観客の復元」から「メロドラマ」へ

—エヴレイノフの「古代劇場」の考察から—

篠崎 直也 91

第10号 (2006)

論文

К истории конституционной терминологии:

свобода совести

Семаков Владимир 1

Semantic Structures of the Hungarian Verbal Prefix *be-*

WASEDA Mika 11

アレクセイ・トルストイにおける

「祖国」と「歴史」の概念について

横田 真紀 21

東方ユダヤ史から見たマルク・シャガール

—「私がユダヤ人でなかったならば、私は画家にな
っていませんでした」—

角 伸明 39

Diplomatic Ritual as a Mirror of Russo-Japanese Relations in
the Edo Period

IKUTA Michiko 55

第 11 号 (2007. 3)

論文

- ハンガリー語の副詞的分詞の表現における意味的制約 江口 清子 1
プーシキン『青銅の騎士』とデカブリストたちの詩 杉野 ゆり 13
主教が見た幻 一個と普遍— 渡辺 聡子 29
「ブダペスト派 Budapesti iskola」と
ハンガリーにおけるドキュメンタリー映画の展開 高田 佳代子 41

研究ノート

- 明治前半の紀行と読売新聞の紙面に見るシベリア ナデジダ・クライニユク 55

資料

- フヴォストフ海軍中尉の日記に見る
1806 年度第 1 回サハリン遠征 オリガ・クリモワ 75

第 12 号 (2007. 9) 最終号

特別寄稿

- ロシア語学科 85 年の歴史を追って 山口 慶四郎 1

論文

- スラブの 2 つの文字の由来について 神山 孝夫 13
«Медленное чтение» как синтез изучения языка,
литературы и культуры Маргарита КАЗАКЕВИЧ 51
個人的個性・非個人的個性личность индивидуальностьと三つの意識
—スタニスラフスキーとミハイル・チェーホフの演技論— 堀江 新二 62
生田 美智子 80

- サハリン遠征の指令 (1806 年) —レザノフがフヴォストフ海軍中尉とダヴィドフ海軍少尉に与えたもの— オリガ・クリモワ

- 終刊にあたって 神山 孝夫
『ロシア・ソビエト研究』, 『ロシア・東欧研究』 総目次・掲載記事総目録

『ロシア・ソビエト研究』 『ロシア・東欧研究』 掲載記事総目録

掲載は執筆者名の 50 音順とする。名前の記載は姓名の順とし、邦人の場合には漢字表記に統一した。

旧シリーズ『ロシア・ソビエト研究』の掲載号はアラビア数字で、新シリーズ『ロシア・東欧研究』のそれはアスタリスク (*) を付したアラビア数字で示す。

- 荒武 鉄郎 レーニンと西部ロシア 第8号。
—— (最終講義) リトアニア民族運動と識字率 第*3号。
五十嵐 徳子 現代ロシア人の文化・芸術への意識 第*1号。
生田 美智子 ゲルツェンと「Very dangerous!!!」:「余計者」と「暴露文学」を中心にして 第9号。
—— ベリトフ論 第12号。
—— 身体言語表現の二重構造と異文化間コミュニケーション 第15号。
—— ソマティック・コードとバーバル・コードの相互交渉:ソマチズムの言語表現と慣用語 第16号。
—— 身体表現と言語・文化 第17号。
—— 橘耕斎と日露文化交流 第*3号。
—— ペテルブルグのネフスキー (1) ペテルブルグ工科大学とペテルブルグ大学東洋学部 第*6号。
—— 江戸時代のロシアイメージ:大黒屋光太夫とラクスマン遣日使節団 第*8号。
—— Diplomatic Ritual as a Mirror of Russo-Japanese Relations in the Edo Period 第*10号。
石田 修一 エフ・ペ・フィーリン:言語学の若干の哲学的諸問題について 第8号。
—— ロマノーソフの文体論とその評価をめぐって 第10号。
—— ロシアにおける三文体論の系譜 第11号。
—— (翻訳) В. Н. Данков «Историческая грамматика русского языка : выражение залоговых отношений у глагола». Москва. Высшая школа.1981. 第13号。
—— ロシア語史における *тыт の再編過程について 第14号。
—— ロシア語「所有」パーフェクトについて 第15号。
—— イヴァン・ドブレブ著『スラブ祖語子音語幹、二重音幹曲用の起源と意義について』:「古代ブルガリア語」への補足資料として 第17号。

- 内容類型学と個別言語学の接点：最近の研究に見るロシア語「態」の研究 第*2号.
- 上原 順一 ロシア語の命令形と音節構造 第17号.
- XV^{suf} (огнетушитель) 型名詞の語形成について 第*2号.
- 植村 進 一肢文と不完全二肢文の境界区分について 第7号.
- ロシア語の文法的語順：現代ロシア語の発話の根底にある語順について 第8号.
- A. Г. Руднев « Синтаксис современного русского языка »について 第8号.
- 江口 清子 ハンガリー語の副詞的分詞の表現における意味的制約 第*11号.
- 扇 千恵 アンドレイ・タルコフスキーの『ストーカー』をめぐって 第17号.
- 岡本 武 ソフホーズおよびその他の国営農業企業の完全経済計算性への移行について 第7号.
- 社会主義的所有の二形態の「接近・融合」過程：1960年代ソフホーズの社会化水準の分析を中心に 第9号.
- ソフホーズ制度の改革と農業の指導・管理体系：MTS改組後の農業指導・管理機関の編成過程 第10号.
- ソ連邦における農工複合体 第12号.
- 農工コンプレックスの管理体系：地区農工合同 (РАПО) の組織と管理 第13号.
- ロシアにおける農業改革と農業経営：その経緯・現状・課題 第*1号.
- 移行期ロシアの農村再生と社会問題：農村の生活基盤整備と農業改革 第*2号.
- 岡本 真理 ロシア連邦内のウラル系諸民族の言語状況：ハンガリーにおける比較言語学研究史の視点から 第*2号.
- Remarks on the Standardisation of Minority Languages : The Case of Central Eastern Europe in the Nineteenth Century 第*3号.
- ハンガリー社会言語学の現状と課題 第*4号.
- マイノリティー社会の帰属意識と言語意識に関する一考察：ユーゴスラビアとルーマニアのハンガリー・マイノリティー 第*7号.
- 荻野 晃 ハンガリー外交とチェコスロヴァキア危機 (1968) 第*6号.
- ハンガリーにおけるポスト共産主義時代の国防軍改革 第*8号.
- 奥村 剋三 (翻訳) スタニスラフスキー・システム考察：『紅旗』の「システム」批判に関連して 第7号.
- 小野 堅 (翻訳) エフ・デ・クレートフ：レーニンの一国社会主義論の成立 (『歴史の諸問題』1960, 4) 第1号.
- (翻訳) グラトコフ・イ：レーニンの4月テーゼ 第2号.
- (国本哲男と共訳) イーストリナ・イエ・エス：動詞 (アカデミー版『ロシア語文法』第1巻) 第2, 3, 5号.
- (翻訳) グラトコフ・イ：ロシアの社会主義革命にかんするレーニンの綱領 第3号.
- (翻訳) ヴォロブエフ・ペ・ヴェ：レーニンの労働者統制思想と1917年3月-10月の労働者統制運動 第5号.

- レニングラード便り 第6号.
- 経済史学の方法：ソビエト経済史研究のばあい 第7号.
- (翻訳) ペ・エヌ・ペールシン：ヴェ・イ・レーニンとソ連邦における農業問題の解決 第9号.
- (紹介) 『ネップに関するレーニンの学説とその国際的意義』(1973. モスクワ「エコノミカ」出版社) 第10号.
- ソビエト経済史研究の深化：上島武著『ソビエト経済史序説：ネップをめぐる党内論争』について 第12号.
- (追悼文) 高橋輝正先生について 第14号.
- (最終講義) ネップとレーニンの社会主義漸次移行論 第*3号.
- 小野 理恵 (=林田理恵) ロシア語動詞の意味分析の方法論に関する基本的視点と教授法的観点 第14号.
- 角 伸明 東方ユダヤ史から見たマルク・シャガール：「私がユダヤ人でなかったならば、私は画家になっていなかったでしょう」 第*10号.
- カザケーヴィチ・ヴェチェスラフ (КАЗАКЕВИЧ Вечеслав) Потерпевшие кораблекрушение, или изгнанники из Серебряного века 第*1号.
- Странности русских поэтов 第*2号.
- Облако Поплавского 第*3号.
- カザケーヴィチ・マルガリータ (КАЗАКЕВИЧ Маргарита) От школы памяти к школе мышления：проблемность в обучении на примерах грамматики и лексики 第*4号.
- «Путь кенгуренка», или «Смерть от изящества»：опыт исследования национальной специфики восприятия художественного произведения 第*5号.
- «Медленное чтение» как синтез изучения языка, литературы и культуры 第*12号.
- 加藤 純子 プーシキンにおける「状況の奇妙な重なり合い」：プーシキンが取り上げたロシア精神の迷信的側面 第*4号.
- 神山 孝夫 スラブ語の「娘」をめぐる 第16号.
- (翻訳) リューディガー・シュミット「古典アルメニア語歴史文法」(その1) 第*2号.
- (追悼文) 山岸リリャーナ先生を偲んで 第*3号.
- 印欧祖語の成節流音をめぐって：スラブ語前史における「開音節法則」とメタテーゼ 第*5号.
- 前史におけるスラブ人 (1) 第*7号.
- (追悼文) 千野先生の思い出 第*7号.
- スラブの2つの文字の由来について 第*12号.
- 川北ナターリア (КАВАКИТА Наталья) Ввысь (Тема природы — деревья — в творчестве Марины Цветаевой) 第*1号.
- Поэтическая идея бессмертия в творчестве Марины Цветаевой 第*3号.
- Проблема архетипа в литературе и Марина Цветаева (Часть первая) 第*4号.

- 木寺 律子 『肖像画』について 第*7号.
 —— 『カラマーゾフの兄弟』におけるファウストの登場 第*9号.
- 国本 哲男 (翻訳) ペ・ヴェ・ヴォロブーエフ：10月革命の法則性と民族的・歴史的諸条件 (『歴史の諸問題』1960. 11) 第1号.
 —— (小野堅と共訳) イーストリナ・イエ・エス：動詞 (1) (アカデミー版『ロシア語文法』第1巻) 第2, 3, 5号.
 —— (翻訳) クリュチェフスキー・ヴェ・オ：プーシキン銅像除幕式の演説 第2号.
 —— (翻訳) ルイバコフ・ベ・ア：9-13世紀半ばのロシア史の一般的現象概観 (1) 第3号.
 —— (翻訳) 建国伝説の発展 第5号.
 —— プーシキンの『エゼールスキー』について：詩人の自由 第6号.
 クライニク・ナデジダ 明治前半の紀行と読売新聞の紙面に見るシベリア 第*11号.
 クリモワ・オリガ フヴォストフ海軍中尉の日記に見る1806年度第1回サハリン遠征 第*11号.
 —— サハリン遠征の指令 (1806年)：レザノフがフヴォストフ海軍中尉とダヴィドフ海軍少尉に与えたもの 第*12号.
- 桜井 郁子 『イルクーツク物語』のコーラス 第8号.
- 櫻井 映子 リトアニア語の過去分詞の意味と機能 (1)：時間性と定語的機能について 第*7号.
- 篠崎 直也 「観客の復元」から「メロドラマ」へ：エヴレイノフの「古代劇場」の考察から 第*9号.
- 杉野 ゆり プーシキン『青銅の騎士』とデカブリストたちの詩 第*11号.
- 鈴木 広和 ハンガリー王国「1267年法令」試訳 第*2号.
- ズビャーギン・フョードル (Федор Звягин) Семантика перфектива в русском и японском языках 第*9号.
- セマコフ・ヴラディーミル (Семаков Владимир) Споры «о временах» в полемической литературе Московской Руси 第*6号.
 —— О значении форм аориста и имперфекта в языке русских памятников 17 века 第*7号.
 —— К истории конституционной терминологии: *свобода совести* 第*10号.
- 高田 佳代子 「ブダペスト派 Budapesti iskola」とハンガリーにおけるドキュメンタリー映画の展開 第*11号.
- 高橋 輝正 まえがき 第1号.
 —— プレトネル先生の御退官にあたって 第6号.
 —— トルストイの「神的なもの与人間的なもの」について 第7号.
- 田代 直也 アディ・エンドレの可能性：中・東欧におけるモダニズム 第*1号.
- 田中 則子 (書評) ア・エヌ・シューキン『外国語としての短期学習・教授法』(1984年) 第14号.

- 田中 泰子 マルシャークとチュコフスキイ 第8号.
 —— (翻訳) ウラジーミル・マヤコフスキイ「同志レーニンとの対話」 第9号.
 —— マヤコフスキイ「レーヴィ・マルシ」についての覚え書 第10号.
 —— マヤコフスキイの詩「汽車で」(Еду)について考えたこと 第11号.
 —— 「真赤な花」はどこに咲いたか? : C.T.アクサーコフの「真赤な花」をめぐる 第13号.
 —— イフゲーニア・ミハイロブナのこと 第14号.
 —— 「おおきなかぶ」考: 文学教育の視点から 第16号.
 —— 「バベルの塔」など: ロシアにおける子供ための聖書物語 第17号.
 —— (監訳) ヴェチェスラフ・カザケーヴィチ「ロシア文学史: 『ロシアの心』の四季」 第*2, *3, *4, *5, *6, *7, *8号.
 —— (監訳) コルネイ・チュコフスキイの日記より 第*4, *5, *6, *7, *8号.
- 寺尾 信昭 Oscar Jászi and the Magyar-Jewish Alliance in Hungary 第*1号.
 —— (翻訳) ネタニエル・カツブルク『ハンガリー・ユダヤ史研究の問題点: なぜハンガリーのドゥブノフやユダヤ人のセクフェーが出なかったのか?』 第*4号.
 —— ハンガリーにおける国家概念の再編と「東方ユダヤ人」 第*6号.
- テレーシチェンコ (Г. Терещенко) (書評) Щукин А. Н. Методика краткосрочного обучения русскому языку как иностранному, М., 1984. 第14号.
- 富浪 貴志 編曲としてのバルトークの《ソナティナ》 第*1号.
 —— コダーイの〈無伴奏チェロ・ソナタ〉が持つ形式と構造の特質 第*3号.
- 長野 俊一 チェルヌイシェフスキイの小説作法: ロマン『何をなすべきか?』における対比法あるいはパラレリズムについて (1) 第12号.
- 野村 孝夫 ルーゼンの「隠れ家」: ツルゲーネフと日本近代文学 第15, 16, 17号.
- 林田 理恵 ロシアの都市方言 第16号.
 —— 大学における異言語教育の新しいコンセプトを模索して 第*2号.
 —— ロシア語受動構文の意味と機能 第*3号.
 —— ロシア語受動構文と不定人称文 第*5号.
 —— ロシア語のアスペクトと視点, 内部記述/外部記述: 不完了体〈一般的事実〉の意味を中心に 第*7号.
 —— ロシア語特殊疑問文におけるアスペクト的意味と機能 第*9号.
- 原田 義也 (翻訳) リーナ・コステンコ詩抄: 現代ウクライナ詩の世界 第*6号.
 —— (翻訳) レーシャ・ウクラインカ『カタコンベにて』 第*8号.
- 藤原 克美 ロシアのテキスタイル産業の企業動向: 「ロスチェキスチル」と商社の対立をめぐる 第*3号.
- 藤原 潤子 ロシアにおける葬送の呪文についての一考察 第*4号.
 —— 故郷へのトスカー 第*6号.
- 藤本 和貴夫 農民運動, 兵士の運動とデカブリスト運動 第5号.

- プレトネル (O. B. Плетнер) Очерк исторической морфологии русского языка 第4号.
 — 思い出すままに 第6号.
- 法橋 和彦 リアリズムにかんする覚え書き (1) 第3号.
 — ソビエト文学における「現代のヒーロー」批判的おぼえ書き (一) 第6号.
 — 「ソルジェニーツィン問題」のうけとめかたにかんする簡単なメモと意見 (1974年春の日本批評界・論壇にみる) 第10号.
 — トルストイを語る 第11号.
 — ツルゲーネフのロシア語 第17号.
 — 終刊にあたって 第17号.
 — ミクロの観察眼 (め) とマクロの思想 (こころ) を 第*1号.
 — (最終講義) 古典について 第*3号.
- 堀江 新二 『かもめ』(1898) から『かもめ』(1917) へ: スタニスラフスキーとダンチェンコ 第*4号.
 — 心を持った超^{スーパー}人形^{マリオネット} — 『ハムレット』1911: スタニスラフスキーとゴードン・クレイグ 第*5号.
 — ロシア・イメージ考 (ロシア演劇の受容): 小山内薫のロシア演劇イメージ 第*8号.
 — 個人的個性・非個人的個性と三つの意識: スタニスラフスキーとミハイル・チェーホフの演技論 第*12号.
- 松本 賢一 『分身』の告白小説的性格とその展開 第15号.
- ムスフェリト (H. Мусфельд) Уголовная проза и угловатая поэзия 第6号.
- 武藤 洋二 プレトネル先生の業績と略歴 第6号.
 — 十月革命と文学・芸術における一つの状況 第6号.
 — (旅行記) 絹の道の社会主義 第7号.
 — ゴーゴリと「全ロシア」: 『死せる魂』第一部 第13号.
 — (追悼文) バービンツェフ先生の笑顔 第14号.
 — スターリン体制下におけるオレーシアという現象 第17号.
- 安村 仁志 17世紀スラブの異^{パンスラヴィスト}才 ユーリー・クリジャニチ 第9号.
- 山口 慶四郎 ソ連邦における最近の農業振興政策 第12号.
 — (資料) ソ連共産党中央委員会 第13号.
 — (追悼文) ピヌス教授を追憶する 第14号.
 — (特別寄稿) ロシア語学科 85年の歴史を追って 第*12号.
- 横井 幸子 グルジア語概観: ロシア語研究のために 第*4号.
 — 『ノヴゴロド第一年代記 (シノド本)』における動詞 6b の用法について 第*6号.
- 横田 真紀 ソヴィエト政権へ寄せられた手紙: 1928-1939年 (1) ~ (2) 第*7,*8号.
 — アレクセイ・トルストイにおける「祖国」と「歴史」の概念について 第*10号.
- 早稲田 みか The Slovak State Language Law: its meaning and background 第*2号.
 — On Hungarian Infinitive Constructions 第*5号.

- 文法カテゴリーとしての^{ケース}格：ハンガリー語の^{ケース}場合からの展望 第*9号.
- Semantic Structures of the Hungarian Verbal Prefix *be-* 第*10号.
- 渡辺 聡子 広津和郎『神経病時代』の誕生とチェーホフの『決闘』 第15号.
- 「箱」からの解放：チェーホフの小三部作をめぐって 第*3号.
- 主教が見た幻：個と普遍 第*11号.
- 渡辺 正幸 ブレスト・リトフスク講和とレーニン 第5号.
- (紹介) ハルガルテンの『1914年以前の帝国主義』にたいするエルサリムスキーの評
価について 第5号.
- 癒着と従属：ツァーリズムの国家機関と独占資本との関係について 第6号.